

保護者のための Uターン セミナー& トークセッション



当日の模様は
YouTubeでも配信!

保護者ができる 寄り添い方とは

「コロナ禍のUターン就職事情と保護者ができる寄り添い方」をテーマにしたトークセッションでは、自身もUターンを経験したウエブコンサルティングの藤加奈子さんを進行役に、吉田産業の中山明子さん、プライフーズの山本怜央さん、八戸学院短期大学部の玉川哲也さんがパネリストとして登壇。地元企業の採用担当者Uターン就職した若手社員、大学のキャリア支援職員という異なる立場から、活発に意見を交わしました。

子どものUターン就職を希望する保護者向けのセミナー「Uターン就職」が6日、八戸市のデーリー東北ホールで開催されました。八戸商工会議所、八戸地区雇用対策協議会、八戸市、デーリー東北新聞社が主催。参加者は、子どもとの向き合い方や、最近の地元就職事情、行政による支援制度などに理解を深めていました。当日の内容を詳しく紹介します。

企画・制作/デーリー東北新聞社 地域ビジネス局



セミナー 第一部 「本当に必要な親の支援の在り方」 講師/風間 一恵氏
トークセッション 第二部 「コロナ禍のUターン就職事情と保護者ができる寄り添い方」 司会・コーディネーター/藤 加奈子氏

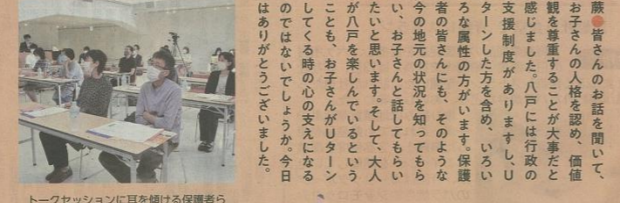


子ども世代との 価値観の違い認めて

トークセッションでは、地元就職事情や、若い世代の働き方に関する価値観などについて活発に意見を交わした。左から藤加奈子氏、中山明子氏、山本怜央氏、玉川哲也氏

子の価値観を尊重して

藤 ●Uターンして就職する際にも、保護者がどう寄り添えるかを考えていきたいと思えます。山本さんは親御さんからどのようなサポートを受けましたか。
山本 ●求人の見方についてアドバイスを受けました。給料が高くて、見えない残業込みになっていないか、社員の年齢層を見て、長く働いていられるかを確認することなどです。企業説明会に参加し、自分の目で会社をしっかりと見ることが大事と言われました。また、通勤に車が欠かせないので、父の車を譲ってもらって非常に助かりました。
中山 ●親の価値観を押し付けて、本人が納得していない状況で就職先を決めたとしても、すぐに諦めてしまっても構いません。お子さん、保護者、企業の三者がハッピーになれるよう、押し付けではなく、一緒に就職について考えてもらえればと思います。また、一般ユーズとしてポイントがなくても、地元には良い会社があるということを伝え、視野を広げるサポートをしてあげてほしいです。
玉川 ●玉川さんから保護者へのアドバイスをお願いします。
藤 ●玉川さん、強く指導するのはなく、寄り添って、背中を押してあげてくれる方がいいと思います。2年生の後半くらいから早い段階で、一校のキャリア支援に行ってきたら、声を掛けられることで、インターネットなどを通して気になる会社に出会い、就職先が早く見つかることもあります。



トークセッションに耳を傾ける保護者ら

親子関係が移住実現の鍵

私は2016年、35歳で八戸にUターンし、今は「地域コーディネーター」という仕事をしています。地域コーディネーターとは、地域と人をつなぎ、それぞれの交点を整え、新しい価値を紡ぐ役割です。Uターン後、最初に就いた仕事は八戸圏内の移住コーディネーターでした。その後、青森県、八戸圏でも移住支援に携わり、現在は主に五戸町で、イベントを通じてさまざまな形で五戸町とつながる機会をつくっています。私自身は八戸市飯町で生まれ育ちました。高校卒業後は盛岡、仙台、名古屋などに住みましたが、ワーキングホリデーや世界一周で、1年半海外にいたこともありました。30代前半は軽率で働いていました。仕事にやりが



親子間での対話の重要性について話す 風間一恵氏

いがありました。とにかく忙しく、長く続けるのは無理だと感じていた時、「いつかは八戸に帰ろう」と思っていたけど、今では「はいか」と気持ち、Uターンを決定しました。
Uターンして良かったことは、家族が近くにいる、何かを助けてもらえることや、頑張っている同世代が多いこと、そして自分がこれまで積んできた経験が地域の役に立つと感じられることです。収入は減りましたが、生活費も意外と安くはなりません。Uターンしたメリットの方が大きいと思います。
私の親は、私のやりたいことに反対せず、何でもやらせてくれました。理解できないこともあったとは思いますが、「八戸に

帰って来い」と言われたことは一度もありません。お子さんのUターンを後押しするために大切なことは、親世代の価値観を押しつけないことです。お子さんの価値観を尊重した上で、どんな暮らしを望んでいるのか、お互いの希望がどうすればかなうのか、お子さんとたくさん対話をして、交点をみつけてください。どこに住むにしても、お子さんがそこで暮らすを楽しむことが大切です。どうすればお互いが幸せになれるのか、親子で一緒に考えましょう。